

発行 福岡県社会福祉協議会
 子育て支援事業推進室
 〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階
 TEL 092-584-3377 FAX 092-584-3369
 E-mail kosodate@fuku-shakyo.jp



前原市子育てサロン「すまいる広場」

子育てでつながる地域

今、子育て支援が注目されています。行政では、様々な取り組みが行われ、子育て支援に関することが、新聞などでも頻繁に取り上げられるようになりました。福岡県内の各地域では、子育てのサロンやサークル活動が積極的に行われ、活動に参加している親子同士のきずなや子育てサロンやサークル同士のつながりもできてきました。もちろん、これから子育て支援に取り組もうとしている地域もあります。

子育て支援活動には、地域の様々な方々が携わっています。サロンやサークルで顔見知りになったおじさんやおばさんが、地域の中で近くにいると、子育て中の親にはとても頼もしいものです。今回紹介している子育てサロンは、地域の方々との関わりがサロンの活動で終わることなく、地域で一緒

に生活している限り、そのつながりは消えない事を教えてくれました。

これからの子育てサロンやサークルが、子どもも高齢者も、地域の誰もが気軽に利用できるコミュニティサロンとして、地域の方々の出合いを提供できるひとつの場となっていくことを願います。

(子育て支援事業推進室 川上・奥野)

もくじ

- 子育てサロンレポート 2
 (すまいる広場/前原市)
- 子育て支援情報 3
 (サークルリーダー研修会 助成事業募集)
- イベント情報 4
 (おもちゃとしょがんごリリクラブ/小郡市)

縁の下のちからもち!

すまいる広場

(前原市)

前原校区の子育てサロン「すまいる広場」は、毎月第4木曜日に前原中央公民館で行われています。

主任児童委員の日高さんを中心に13人の民生委員の方々が、企画から準備まで一手に引き受けています。

活動の内容は、参加されるお母さん方との会話の中で出てきたもの。「思いついたものは何でも!!」と言われるとおり、福岡空港や博多駅に飛行機や電車を見に出かけたり、新幹線やバスでの小旅行、英会話教室や料理をしたりと積極的に活動されています。現在は、たまには勉強



縁の下のちからもち!
民生委員のみなさん

もしてみようと講習会を企画中とのこと。

お盆過ぎの残暑の厳しいこの日は、夏の定番「そうめん流し」が開催されました。民生委員さんが竹を切り出して作ったそうめん流しがセッティングされ、子どもたちはもちろん、そうめん流しが初めてのお母さん方も大喜び!「保育園に行ったお兄ちゃんも連れて来たかった。」と言われるお母さんも、普段なかなかできないことが体験できるのもサロンのいいところですね。

「すまいる広場」には、こうした楽しい時間を過ごすための民生委員さんの細やかな心遣いが随所に感じられます。今回のそうめん流しでは、子どもたちが触れても危なくないようにと、5メートルはある竹の切り口には丁寧にやすりがかけられていました。また、そうめんに添える薬味の漬物も手作り。民生委員さんが、それぞれ得意なところを受け持ちながらサロンを運営されていることがよく伝わってきました。



この夏初めて出した「すまいる通信」

引っ越して来た方にも前原になじんでもらえるようにと、子育て関連の情報にとどまらず、地元のお祭りなどの日程や歴史を紹介するコーナーも入っています。

「子どもたちが大きくなると、サロンから巣立っていきます。でも、主任児童委員や民生委員としての関わりは、そこで終わりではありません。子どもたちが小学校や中学校に行っても、顔をよく知っている委員が見守っていくことができるんですよ。」という日高さんの言葉がとても印象的でした。



そうめん流しに夢中!

こども



おいしかったね



まだ〜?



ちゅる



とれたっ!

子育てサークルリーダー
研修会を開催します！

福岡県社会福祉協議会では、子育て支援活動に関わっている方、興味のある方を対象とした研修会の開催に向け準備を行っています。(主催

厚生労働省 子ども未来財団) 1

日目は、子育てサロンやサークル活動を更に充実させていくために必要な事業の企画方法、活動を継続していくための人材発掘などについて学びます。2日目は、厚生労働省からの子育て支援に関する説明や講演・シンポジウムを行い、地域ぐるみの子育て支援を考えます。

この機会にぜひ、子育て支援に触れてみませんか。詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

期日 平成18年11月29日(水)
12月9日(土)

時間 10時半～15時

会場 福岡県中小企業振興センター
(福岡市博多区吉塚本町9-15)

参加費 無料

お問合せ先

子育て支援事業推進室
電話 092・584・3377

平成19年度独立行政法人福祉医療機構
助成事業募集のお知らせ

独立行政法人福祉医療機構は、地域の実情に即したきめ細かな子育て支援事業に対し助成を行います。

子育て支援基金

地方分助成対象事業

- ① 地域や家庭における子育て支援事業に関する事
 - ② 青少年の非行防止・健全育成事業に関する事
 - ③ 子育てや非行児童等に関する広報啓発活動に関する事
 - ④ 小・中・高校生や小・中・高校生のある家庭に対する支援事業に関する事
- これらの事業を対象に、200万円を上限として助成します。

地方分モデル事業

右記①のうち、携帯電話メールによる子育て情報(防犯・防災、イベント、感染症・医療、食品・食中毒等)配信事業についてはモデル事業の対象とし、200万円を上限として助成します。

対象 社会福祉法人、公益法人、特定非営利活動法人、法人格のない任意に設立された団体で、応募時点で法人または団体が設立されており、助成事業の実施体制が整っている法人又は団体。

募集期間

平成18年10月31日まで

募集要綱請求先・申込先

福岡県社会福祉協議会 地域課

電話 092・584・3377

※福祉医療機構ホームページ

(<http://www.wan.go.jp/wan/>)

からも募集要綱、申請書様式等のダウンロードが可能です。

● 子育てに関する講習会など、イベント情報をお知らせください。本誌でご紹介します。イベント名・日時・会場・主催者名を郵便・メールなどで下記までお寄せください。

福岡県社会福祉協議会
子育て支援事業推進室
〒816-0804 福岡県春日市原町3-1-7
クローバープラザ6階
TEL 092-584-3377 / FAX 092-584-3369
Email kosodate@fuku-shakyo.jp



いゝい



見つけたぞ！



だっこ



なーに？

My son

写真館

遊びにおいでよ!

おもちゃ図書館 ゴリリンクラブ (小郡市)



小郡市の「おもちゃ図書館ゴリリンクラブ」は、毎月2回小郡市生涯学習センターで開催されています。企画・運営は、代表の田中さんをはじめとするボランティアの父母さんたち。障害がある子もいない子も、お互いに「ありのまま」を表現できる出合いの場があったらいいなと、7年前から活動を始めました。室内には、木製のおもちゃ・音の出るおもちゃ・パズル・ブロック・布製の絵本・プールなど、魅力的なおもちゃがたくさん。子どもたちは、おもちゃを床いっぱい広げ、一緒にパズルやブロックをしたり、ボールをなげっこしたりと、自分たちの好きなおもちゃで思い思いに楽しんでいました。

会場 小郡市生涯学習センター
時間 木曜日 10:00~12:00
 土曜日 14:00~16:00
日程
 10月 5日(木)・21日(土)
 11月 移動開館
 (リハビリ施設in大原中)
 12月 2日(土)・14日(木)
 1月 13日(土)・25日(木)
 2月 1日(土)
 3月 17日(土)・29日(木)

※「おもちゃ図書館」とは、子どもに発達の遅れがあってもなくても、おもちゃを通して一緒に遊び、育ちあう憩いの空間です。現在は、全国に約500ヶ所、福岡県には15ヶ所設置されています。

また、小学生の男の子がボールで遊んでいた赤ちゃんを抱っこして、にっこり微笑んでいるかわいらしい姿も見られました。おもちゃを通じて、いろんな人と触れ合えるゴリリンクラブ、ちょっと覗いてみませんか。



この情報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。



大募集!

「ぶくすく」に関するご意見・ご要望、子育てサロン等への取材依頼、子育てに関する様々なエピソードをお寄せください。皆さんの声をお待ちしています。

(子育て支援事業推進室)



子育て支援事業推進室は、各地域で行われている子育て支援の情報を求め、子育てサロンやサークルなど、いろいろなところへお邪魔させていただいています。普段、子どもと接することのない私にとって、取材先で子どもたちに出会うことは、楽しみでもあり、少し緊張もしていました。

とあるサークルにつかかったことごとです。そこでは、赤ちゃんとお母さんがリズムに乗って一緒に体を動かす教室が開かれています。お母さんが腕の中にいる赤ちゃんに、あでことあでこ、ほっぺとほっぺを合わせて、「好き好き」。赤ちゃんの顔が、くしゃっと崩れます。お母さんが優しく触れた時の、赤ちゃんから溢れる笑顔を見たとき、胸にほっこりとしたあたたかいものが広がっていききました。

私も人見知りしなそうな赤ちゃんをそっと抱かせてもらい、他のお母さんを真似て「好き好き」しました。すると、赤ちゃんが笑顔に。少しの緊張は、どこかへ行ってしまうました。子どもの笑顔やかわいいしぐさに触れ、もっとたくさん子どもたちと会いたくなりました。子どもたちとの出会いは、今、始まったばかりです。

(かわかみ ゆみこ)